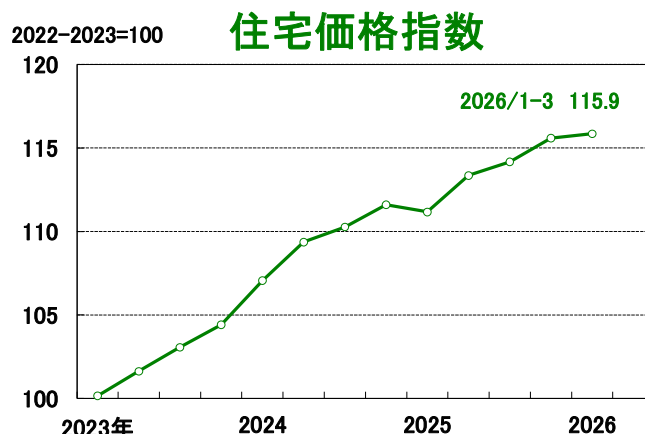
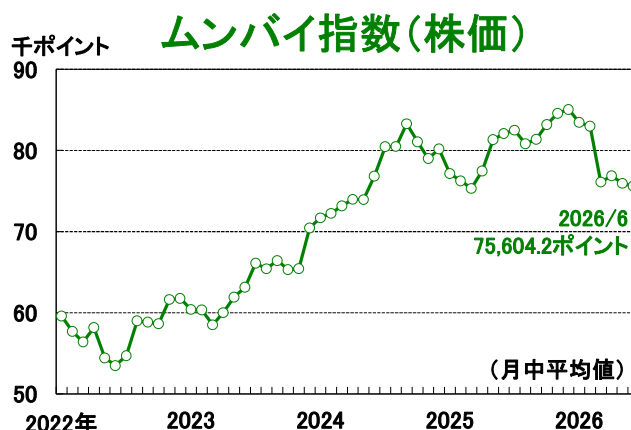
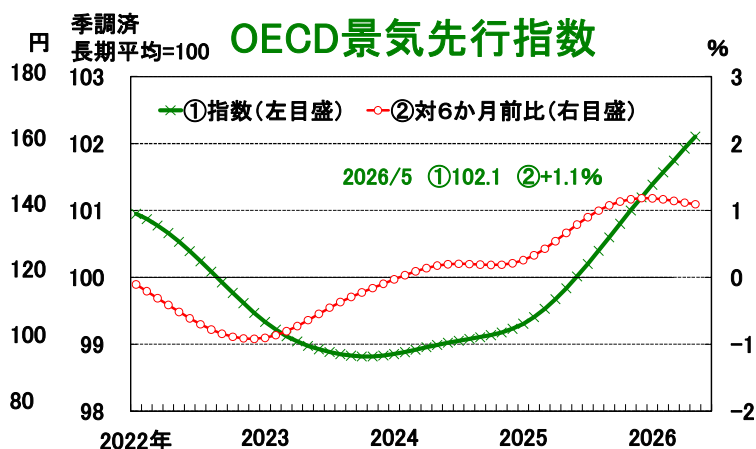
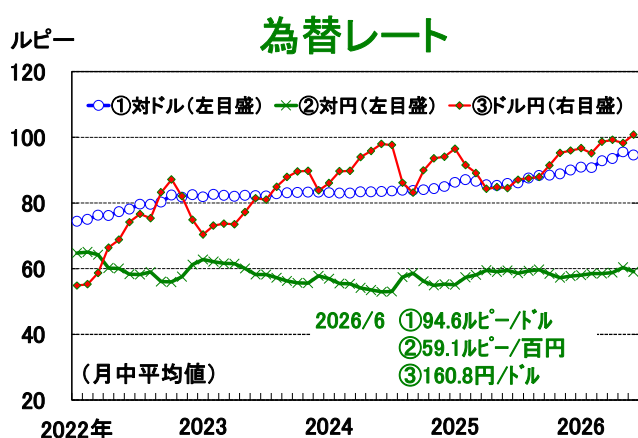
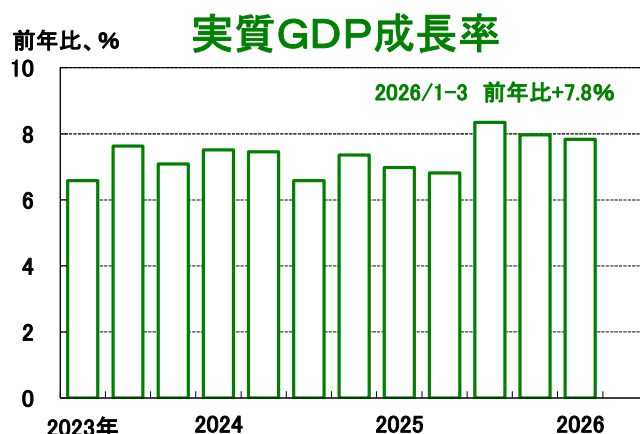
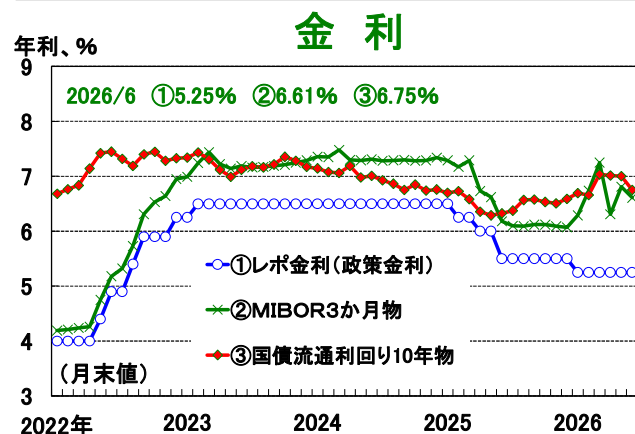
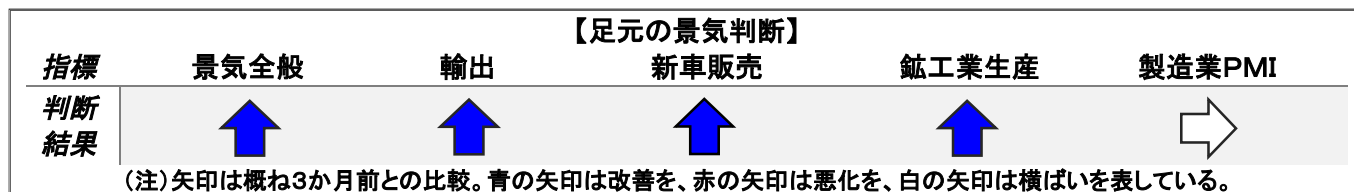


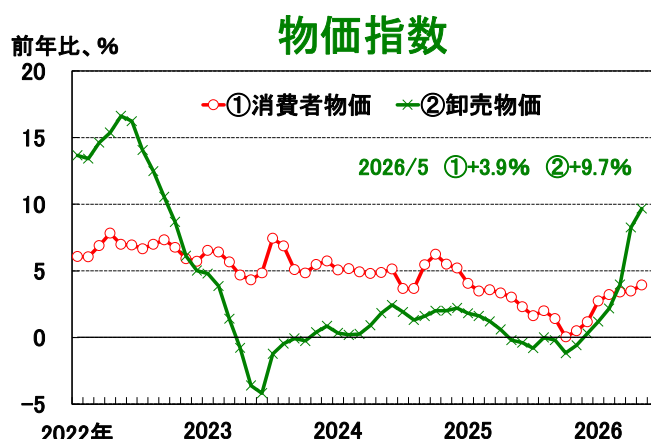
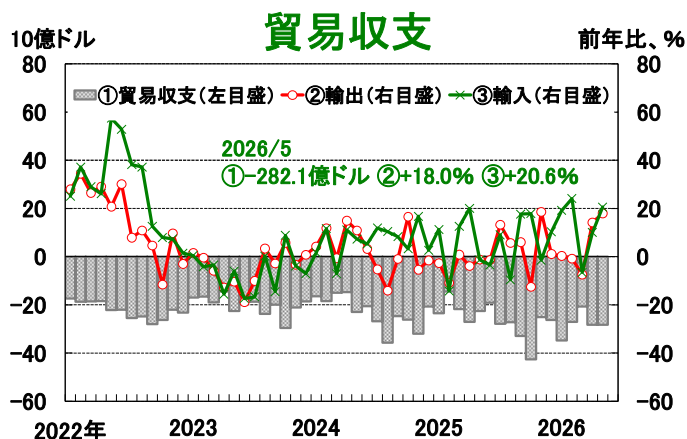
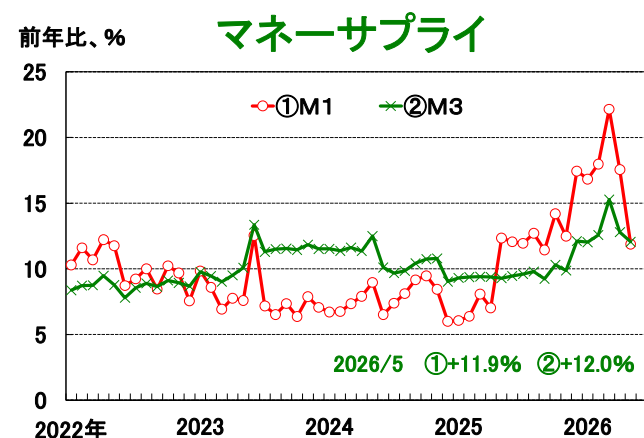
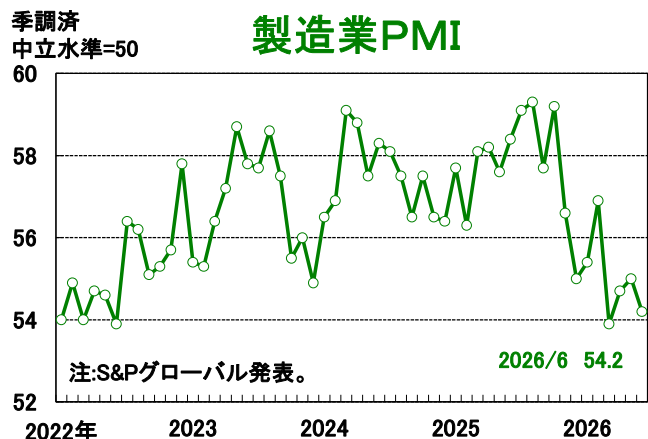
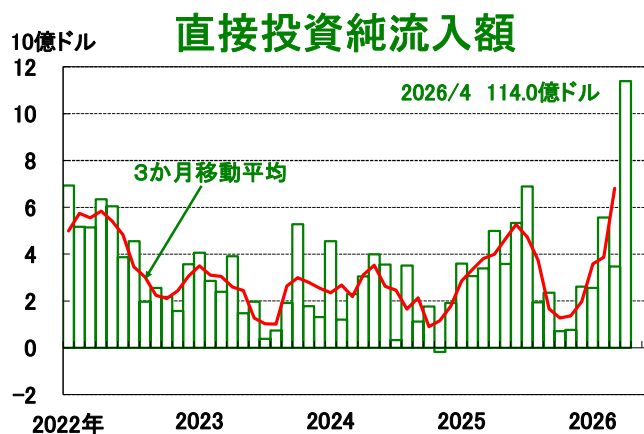
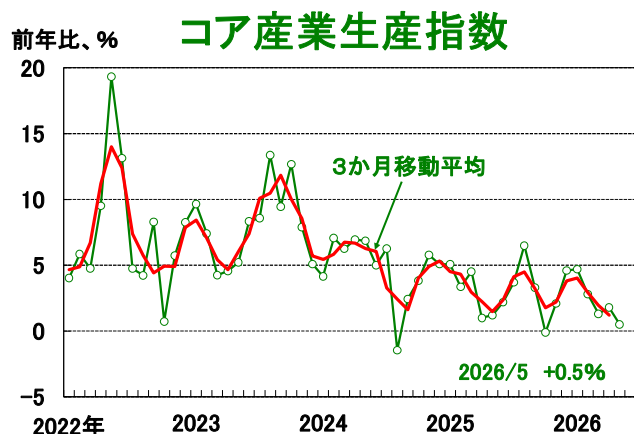
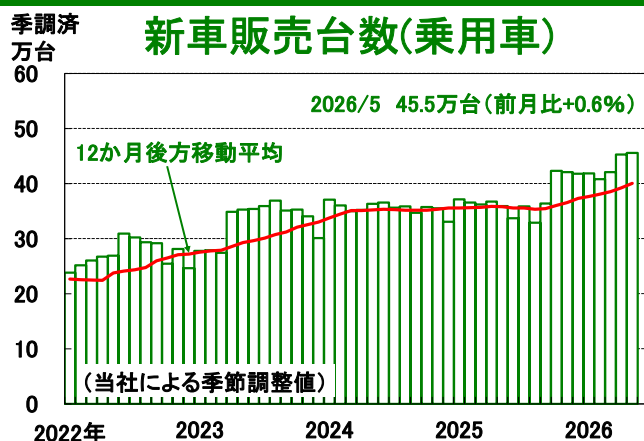
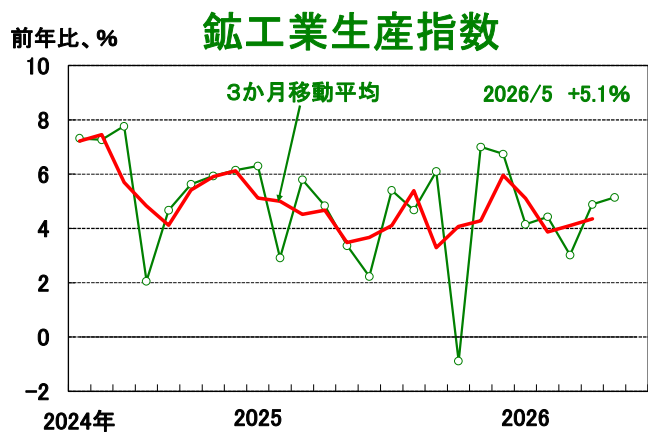
グラフで見るインド経済 2026 年7月号(No. 199)

インドの景気は緩やかに改善している。内需をみると、モディ政権による物品・サービス税(消費税に相当)の大幅な引き下げを背景に、5月の新車販売台数(当社試算の季節調整値)は45.5万台と過去最高を更新するなど、個人消費は堅調に推移した。外需に関しても、5月の輸出は前年比+18.0%と前月に比べて伸びが高まった。国別では、米国向けが伸び悩んだものの、中国向けは底堅く推移し、マレーシアや南アフリカ、イタリア向けも大幅に増加した。こうした中、同月の鉱工業生産指数は同+5.1%と前月の伸びを上回った。



(出所) インド準備銀行、インド統計・計画実施省、OECD、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) インド統計・計画実施省、インド商工省・同経済諮問部・同通商情報統計局、インド自動車工業会、インド準備銀行、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。